

2019～20 年度
国際ロータリーのテーマ



東京赤坂ロータリークラブ

NO. 1530 / 2020. 05. 22

例 会/ANA インターコンチネンタルホテル東京

Tel 03-3505-1111

事務局/〒107-0052 東京都港区赤坂 2-19-8

赤坂 2 丁目アネックス 3F

Tel 03-3505-5976

Fax 03-3505-6004

<http://www.akasakarotary.com/>

東京赤坂ロータリークラブ週報
Weekly Report

2019～2020 年度クラブテーマ
会長 土屋 東一

「協働 親睦 奉仕」

5 月 22 日 (金) 12 : 30 ~ ZOOM ミーティング

卓話 : 「コロナ禍における web 活用術」 関洋一 氏

※ ダウンロード方法、使い方がわからない方は藤井幹事へご連絡のほどお願いします。

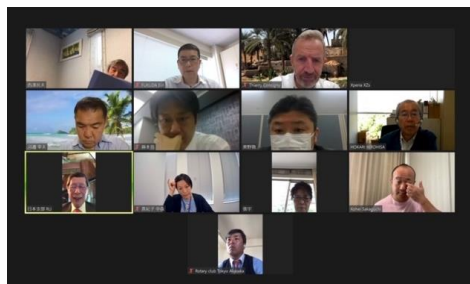
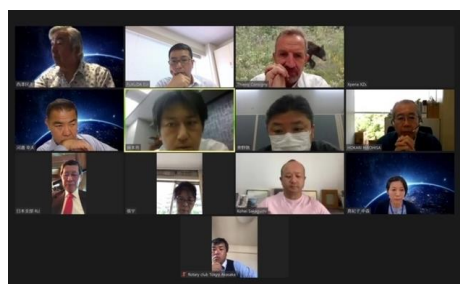
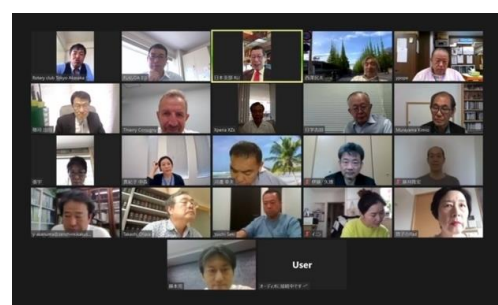
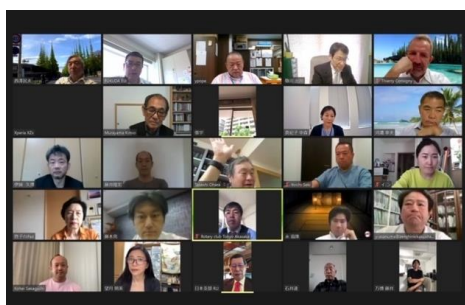
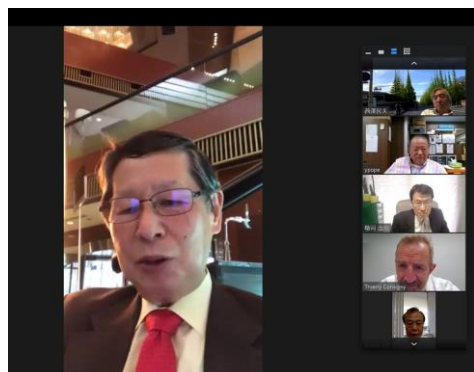
5/15(金)12:30-13:30 まで、赤坂ロータリークラブで zoom での集まりが開催されました

報告: 中森真紀子

5/15 金 1230-1330 まで、今週も赤坂ロータリークラブで zoom での集まりが開催されました。本日は 副会長 熊本誠司氏の卓話『コロナに罹患して・感染から退院まで』でした。ご自身の感染がわかってから入院に至り、そして治癒退院されるまでの経緯～について大変貴重なお話を頂きました(卓話を裏面に掲載)。

次週以降も zoom でミーティングを行います。ご都合つく方はご参加ください。

5/22 金 12:30 から、卓話は関さんから「コロナ禍における web 活用術」をお話頂きます。



本日参加者 過去最大人数の参加 28 名 (順不同 敬称略)

土屋 熊本 坂口 永 福田 穂苅 村山 小原 コンシニ 関 岩上 伊藤 大谷 張 出川 吉田 望月
河邊 中森 石井(達) 石井(謙) 藤井(隆) 藤井(万) 藤本 西澤 浅沼 藤井(宏) イミン

4月5日早朝、突然真っ直ぐ歩くことが出来なくなり、ベッドで横になっているところに河邊さんからメールが入り、前日にPCR検査の結果が出て陽性だったので注意するようにとの連絡でした。

次年度のクラブ運営の件で河邊さん達と会合をしたのは、3月27日の夜でした。河邊さんのお店玉海力で美味しいお酒と肴を楽しみながらの打合せでした。その後、いつもの様に銀座でパトロールをしてから家に帰り、週末は外出を控えて自宅で過ごし、30日（月）午後から現場の予定が入っていたのですが、朝急遽連絡があり大宮の現場へ行ってから、午後の現場に戻り作業をしました。この日の午後から少し咳が出る様になっていて、少し怠さも感じてきたので、帰宅後すぐに休みました。31日は、朝から、友人の病院へ風邪の症状が出ているので見て欲しいと伝え行きましたが、コロナを心配しているのならここでは検査できないので、保健所経由で申し込むしかないと言われ、保健所の連絡先を書いてもらい、その日は頭痛がしていたので鎮痛剤を貰い帰宅しました。

帰宅後鎮痛剤を飲んで寝ていても一向に痛みが取れず不安になったので、翌日31日に保健所へ連絡をして、検査をしてくれる病院へ行きました。

病院では、事前に連絡をしていたのですぐに受付をしてくれて、衝立で囲われた中で待たされ、レントゲンやCTを撮り採血もしました。その結果が出るまで、同じ囲いの中で待たされたのですが、レントゲンやCTの映像に肺炎の症状が見られないので、コロナ感染ではないと言われ、インフルエンザの反応もないけど炎症反応が出ているので、抗生剤と鎮痛剤をもらい帰宅して休んでいました。夜には、頭痛も治まってきて、熱も下がったので、これで良くなるかと思っていたのですが、1日から薬を飲みながら寝ていたのですが熱も高くなりめまいもするので動くことも出来ず、感染の可能性もあるので外出もせず寝ていて、4日（土）の予定していた現場作業に行くことも出来ず寝ていました。この様な状態で迎えた、5日の早朝トイレに行こうと歩いた時に真っ直ぐ歩くことが出来ず、漸くベッドに戻ったところで河邊さんのメールを見て、新型コロナウイルスの感染を確信しすぐに救急車を呼び救急車が来てから、状態を言って、3月27日に一緒に食事した方がPCR検査で陽性になったと伝えたらすぐに病院へ搬送してもらえました。行った病院は、立川の相互病院でしたが前日に立川で初めての陽性患者が出たばかりで、新型コロナウイルス感染者を受け入れ始めたばかりの様でした。

病院に何人の感染者がいたかは不明ですが、私は、レントゲンやCTや血液検査を受けて、肺炎と診断され、すぐに入院が決定。入院した部屋は、その階には1つしかない隔離用の陰圧の部屋でした。医師も看護師も部屋へ入る時に、ヘアキャップやゴーグル・医療用マスク・防護服を着て入室し診察や看護をしてくれます。部屋から出るとすぐに防護服などを脱いで廃棄します。

この様な作業が、部屋へ出入りする度にあるので、ナースコールをしてもすぐには来られませんが、具合の悪い時は、すぐに呼んでくださいと言われました。

入院してすぐに、酸素吸引と点滴を受け、同時にPCR検査も受けました。入院当初は、頭痛も熱も酷かったので氷枕をもらってただ寝るだけで、今から思うと記憶も少し曖昧です。PCR検査の結果は、3日後に成ると言うことで、それまでは頭痛の状態を確認するために頭を振って痛みの状況を確認したりし、陽性と判明したらアビガンを使用すると伝えられ、医師からは、まだ若いので絶対に助けますから安心して下さい。と言われ、急に様態が変わることがあるので、エクモも用意していますが、必要な時にすぐに使いますので承諾書にサインをくださいと言われサインをしました。

この隔離された個室へは、9日まで居ましたが次第に感染した患者が増えた様で、4階のICU・HCU病棟が、コロナ病棟になり私もそこへ移動になりました。その階でも初めは個室でアビガンの投与を受けていました、この時点ではまだ頭痛も高熱も続いていて、食欲もなく栄養補給ができないので、点滴に栄養剤も入れられました。

12日頃から頭痛が少しずつ治まってきて、食事もお粥とおかずを食べられるようになってきました。食事ができるようになると、熱も下がり頭痛も治まってきてベッドの上で起きている時間も増えてきました。13日に同じ病棟内の4人部屋へ移動になりましたが、部屋には私1人でした。

お粥でしたが、食事の量も食べられるようになってきたので、回復してきたのが自覚できるようになりました。酸素吸入も取れて、点滴は続いていましたが起きている時間も増えてくると、病院では、WiFiが使えないので、携帯のポケットがすぐに無くなり、ポケットの購入をしないと速度が遅くなってしまいました。

4月16日に同室の患者が入ってきました。病室では、患者同士が会話をすることもなくお互いの情報は交換することもなかったです。この方の症状はそれほど重くは無いようで、看護師と病室がいっぱいになったらホテルへ行きますか？等と話をしていました。

私には、その様な話はなかったもので、症状によって対応が違うのかと思います。

週末には、入院2週間が経過し、症状もかなり回復をしましたが、この頃から生あくびが出るようになり、深呼吸をしようとする、肺が小さくなっていて、肺に軽い痛みを感じるほどでした。血中酸素濃度も95%程になるので、深呼吸を繰り返してから酸素濃度を測ってもらおうと、98%程度まで上がりました。それからは、深い呼吸をするように気を付けて、退院の目安になるPCR検査で2回続けて陰性になれる様に、食事もしっかり摂り軽い運動も始めました。病棟内には、軽症の方もいるようで、昼食後にラジオ体操をするようになり、私も参加したのですが、2週間の間に筋力が落ちていて、はじめはジャンプもできませんでした。

アビガンの薬もセット分が終了し、点滴も無くなり治療としては何もなくなりましたが、毎朝の採血と検温、酸素濃度測定、さらに午前中のレントゲン撮影は毎日続けました。

血液検査で炎症反応があり、PCR検査を受けることが出来ませんでした。20日に炎症反応も治まったのでPCR検査をしましょうと言われ、午後検査を受けました。翌21日も結果が出る前ですが、二回目も検査しましょうと言われ検査を受けました。23日に検査の結果が出て、1回目陽性で2回目陰性だったので、再度検査をすることになり午後検査を受けました。翌24日の午後結果が出て陰性だったのですが、医師が帰った後なので、25日に退院が決まりますと言われましたが、看護師たちは、25日退院ですねと言っていました。

25日は、朝退院ですと言われ、家内に連絡をして着替えを持ってきてもらいタクシーで帰宅しました。帰宅して、自分の部屋へ行こうと階段を上ろうとしたら、足が上がらず、筋力の衰えに驚きました。病院から家までの移動だけで疲れてすぐにベッドで寝ました。

退院後も2週間は、自宅療養をして外出しないように言われましたが、体力が無くなっていて、外出どころではありませんでした。

翌週、担当医から電話をもらい症状を確認されましたが、咳が止まらないことを告げ、家内が薬をもらいに行ってきました。その薬も無くなる5月7日に、病院へ連絡をしたら救急外来へ来てくださいますとのことで行って診察を受けて、薬を処方してもらいました。

薬を飲みながら、体を動かすことを続け、ようやく咳も出にくくなりました。

今回の入院では、担当医の先生も看護師の方たちも頭から足先まで防護服を着ているので、顔もわからず、退院後も隔離病棟へはいけないので感謝を伝えることが出来ませんでした。

また、入院中も退院後もロータリーの皆さんから暖かい励ましの言葉を頂きましたことに改めてお礼申し上げます。

まだまだ、新型コロナウイルスに対する治療方法もワクチンも完成していませんが、できるだけ早期に終息をすることを願っています。